

JSCA 賞応募のお誘い

2025 年 7 月 1 日

第 37 回 JSCA 賞委員会委員長

渡邊 秀幸

JSCA 賞の意義と JSCA 賞表彰規則

構造設計者及び技術者は建築の作品造りにおいて、性能・コスト・使用性といった構造に課せられた設計条件を満たすだけでなく、時に創造性と革新性あるいは緻密さや柔軟性を持った発想を様々な手段で具現化させ作品の方向性を決定づけます。こうして得られた建築的な成果や功績は建築界のみならず社会に広く共有されるべきで、そのために最も有効な方法が表彰制度です。JSCA 賞は構造設計者及び技術者を表彰する国内の賞として最高峰に位置するもののひとつです。今回で 37 回目を迎えますが、過去の受賞者の多くは受賞をきっかけに社会に広く認知され、その後の飛躍に繋がっています。

JSCA 賞は「JSCA 賞表彰規則（以下、表彰規則）」に規定されています。選考は表彰規則に基づいて厳正に行いますので、熟読、同意のうえご応募ください。JSCA 賞には表彰規則にあるように、作品部門と業績部門が設けられています。ここでは作品部門と業績部門の選考に関する補足説明をします。

作品部門の選考

作品部門には表彰規則第 3 条にあるように、「作品賞」「奨励賞」「新人賞」を設けています。応募時点では区別なく受け付け、最終審査でどの賞にするか決定します。作品部門は作品の規模、作品の発注形態によらず、その作品の実現に最も貢献した構造設計者が単名で応募することを原則とします。なぜならこの賞が作品ではなく構造設計者個人を表彰する賞だからです。審査の過程で応募者が作品の実現に最も貢献した構造設計者と認定できない場合には、作品の善し悪しに関わらず選考に漏れることになり

ますのでご注意ください。

奨励賞の対象者は表彰規則の中で「特に優れた作品を実現した構造設計者、もしくは独創的な構造アイデアの適用、地域性を活かした提案、生産性への配慮などの特定のテーマにおいて卓越した技量が認められる作品を実現した構造設計者とする。」とあります。この規則にあるように、奨励賞は構造技術者を幅広く表彰する目的で設立した賞です。仮に作品全体として特に優れていなかったとしても、部分的に秀でているものがあれば受賞対象となる可能性がありますので、奮ってご応募ください。

作品部門では、まず1次審査として書類選考を行い、通過した作品について現地審査を行います。現地審査のスケジュールは、応募作品の説明30分、作品の視察60分、質疑応答30分の合計120分が目安です。作品自体の完成形ももちろん重要ですが、現地審査では、作品の設計プロセスにおいて何を考えたように判断したか、応募者個人が作品造りにどれほど貢献しているかなどを細かく審査します。質疑応答の流れによっては深く掘り下げた議論に至ることもあるのでしっかり準備をしてください。

最終審査は、応募書類や現地審査の内容をふまえて行います。

業績部門の選考

業績部門の対象者は、表彰規則第3条の2に規定されています。応募時には表彰規則第3条の2

(1)～(3)のいずれに相当するかを明確にするとともに、業績が具体的にわかる応募タイトルとしてください。これまでに、本来作品部門に単名で応募すべき案件を業績部門に複数名で応募された事例が見受けられたため、注意喚起をさせていただきます。

業績部門も1次審査として書類選考を行った後、ヒアリング審査を行います。ヒアリング審査では作品部門の現地審査と同様に質疑応答で深い議論を行うことが想定されますので、説明の準備をお願いいたします。

応募における JSCA 入会の注意

JSCA 賞に応募できるのは JSCA 会員に限られます。作品部門では正会員、業績部門では正会員又は一般会員となります。JSCA への入会には理事会承認が必要になりますので、非会員で応募意思のある方は、入会承認手続きの都合上、2025 年 9 月 15 日までに入会申込をしていただけるようお願いいたします。

さいごに

構造設計者及び技術者は、日々高い職業倫理の下で構造設計や技術開発を行っています。そこで得られた成果や功績をまとめ、賞に応募する機会は限られていますので、JSCA 賞公募の機会に合わせて自らの創意工夫を纏め、是非 JSCA 賞に応募するようお願いします。

審査に当たっては多角的な視点に基づく選考が必要で、豊富な実績と多様な経験を持つ選考委員が行います。仮に受賞に至らなくとも、作品についての整理や選考委員との議論は、必ず応募者の今後の糧になります。ぜひ日々の創意工夫の成果を我々に見せてください。そしてこれからの建築構造と構造技術者の発展に共に貢献してまいりましょう。